

田里一寿 氏を講師に「平和学習会」を開催

去る6月13日(水)3校時に宜野座村立博物館の田里一寿 氏を講師にお迎えして、幼稚園児・1年・2年対象に「沖縄戦と宜野座村」と題して、平和学習会を行いました。

初めに田里さんは「戦争って知っている?どんなこと?」と子ども達に尋ねました。すると子どもたちは、「けんかすること」「爆弾が落とされること」などと答えました。そして、73年前に沖縄の宜野座村で本当にあったお話を紙芝居にした「戦争難民であふれた村Ⅱ」を見せていただきました。

続いて、「沖縄戦後の宜野座村」について、写真や資料、聞き取り調査から、戦後の避難民であふれていた宜野座村の様子と野戦病院や避難民の様子、孤児院の様子などをお話してくれました。講師の田里さんは、「戦争とはとても過酷で、人の事よりも自分のことで精一杯の状況です。でも、その中であっても、死んだ方のお名前を一人一人きちんと「永久保存死亡名簿」として記録に残し、埋葬してくれた方もいたのです。そのおかげで、お骨が故郷に帰ることができた方もいたのです。戦争では生きたいと思って死んだ方の後悔だけではなく、生きのこった人もあの時に(戦争の時)自分にできることがあったのではないかと思う後悔があります。どちらも辛い思いをしています。そんな戦争が起きないために、皆さんがこれからどう生きていったらいいのかを考えてほしいです。」とお話し、「子ども達にどんなことができる?」と問うと「お友達に優しくする」「みんなと仲良くする」「フワフワ言葉を使う」「ものを取り合ったりしない」とたくさんの答えが返ってきました。子ども達なりに、平和について考えることのできた、「平和学習会」でした。

まもなくやって来る6月23日は慰霊の日。ぜひ、ご家族で慰霊の日のある意味について、お話しください。



写真1 平和学習会の様子



写真2 講師を囲んで

講師に対する児童のお礼状より

○私は今日のへいわ学習の話聞いて、せんそうはこわくて、多くの人なくなられて、多くの方がもうこんなおもいはしたくないと思っています。なので、人と人がけんかをしないように、私もお友達となかよくします。なので、きのざ村やちきゅうの方もせんそうをしないようにがんばってほしいです。私は、せんそうはしたくないです。(2年 女子)

○ぼくは、今日のせんそうのお話で、一ばん心にのこったことは、山でくらしている人たちにアメリカぐんの人たちがひこうきから「せんそうはおわりました。でてきてください。」とちらしをおとしても、山からおりてこなかったことです。せんそうは、とてもこわかったのだとおもいました。(2年 男子)

○今日、せんそうのお話を田里さんがしてくれました。その中で一ばん心にのこったのは、せんそうがおわったあとも、けがをした人やびょうきになってしぬ人がたくさんでて、その人たちをトラックではこんで、大きなあなにうめたことでした。とてもかわいそうだと思いました。私は、二どとせんそうにならないように、けんかしないようにします。(2年 女子)

慰霊の日に向けて平和学習資料展 6月4日～22日

6月23日は第二次世界大戦において最も激戦地であった沖縄戦が終結した日です。

沖縄県は、この戦争において多くの貴い生命、財産及び文化的遺産を失った冷厳な歴史的事実に鑑み、これを厳粛に受け止め、戦争による惨禍が再び起こることのないよう、人類普遍の願いである恒久の平和を希求するとともに戦没者の霊を慰めるため、「沖縄県慰霊の日を定める条例」条例で6月23日を「慰霊の日」と定め、その意義を広く認識するよう努めています。毎年、この日には平和祈念公園で沖縄全戦没者追悼式が行なわれ、沖縄戦犠牲者の遺族やその子孫などが集まり、式典中の正午には黙祷が捧げられます。

慰霊の日に向けて、沖縄や世界で起こった戦争について子どもたちにも考えてもらうように、本校では多目的ホールで平和学習資料展を行っています。

写真3 平和学習資料展の様子